

「1学期の総括と今後の展望」

神奈川県立西湘高等学校 木村 剛

1 学期（これまで）の総括

結論としては、その時にそれぞれがやるべきことをやった。

ICTに対する理解が深まった。

ただ、学校としての決断するポイントがあったとは思わない。

神奈川県立高校の時系列（この6か月）

3月 3/2（月）～ 一斉休業 学年末試験中止 課題を指示 1日だけ登校

4月 1日だけ登校 入学式実施

5月 登校無し

6月 分散登校開始

7月 13日～時差登校（9:10 HR）

8月 時差登校（9:10 HR）継続 夏休み8/7～8/23

再開後の登校パターン

6/1 週1回 (9:50HR) 30分×4 分散登校

6/8 週2回 (9:50HR) 30分×4 分散登校

6/15 週2回 (9:50HR) 30分×4 分散登校

6/22 週3回 (9:50HR) 30分×4 分散登校

6/29 週5回 (9:50HR) 30分×4

7/6 週5回 (9:50HR) 50分×5

7/13 時差登校 (9:10 HR) 50分×6

休校期間中の問題

①生徒のネット環境に関する問題

→端末・Wi-Fi・プリンターなど

各学年数人

②生徒のLMSの操作に関する問題

→アプリのインストール・ログイン・課題提出

オンラインだから大変だった

③教員のICTスキルに関する問題

→LMSの操作

個人に任されていたので・・・

生徒の情報環境

現在学校からの課題・連絡などを受け取るのに、どのような機器を用いていますか

回答

番号	回答内容	グラフ	割合	回答数
1	自分専用または優先的に使えるパソコン・タブレット		10.0%	27名
2	必要なときは家族共用または家族所有のパソコンやタブレットを用いて、それ以外は自分のスマホ		14.8%	40名
3	自分のスマホのみ		71.9%	194名
4	家族のパソコンやタブレットのみ		0.7%	2名
5	家族のスマホのみ		0.4%	1名
6	その他		2.2%	6名

コメント (6)

設問.2

スマホを使っている場合、Wi-Fi接続はできますか

回答

番号	回答内容	グラフ	割合	回答数
1	Wi-Fi接続ができる		98.9%	267名
2	Wi-Fi接続はできない		1.1%	3名

3月
既習事項の確認・
春休みの課題



課題を設定・指示

4月から
新規学習内容について
どのように取り組むか



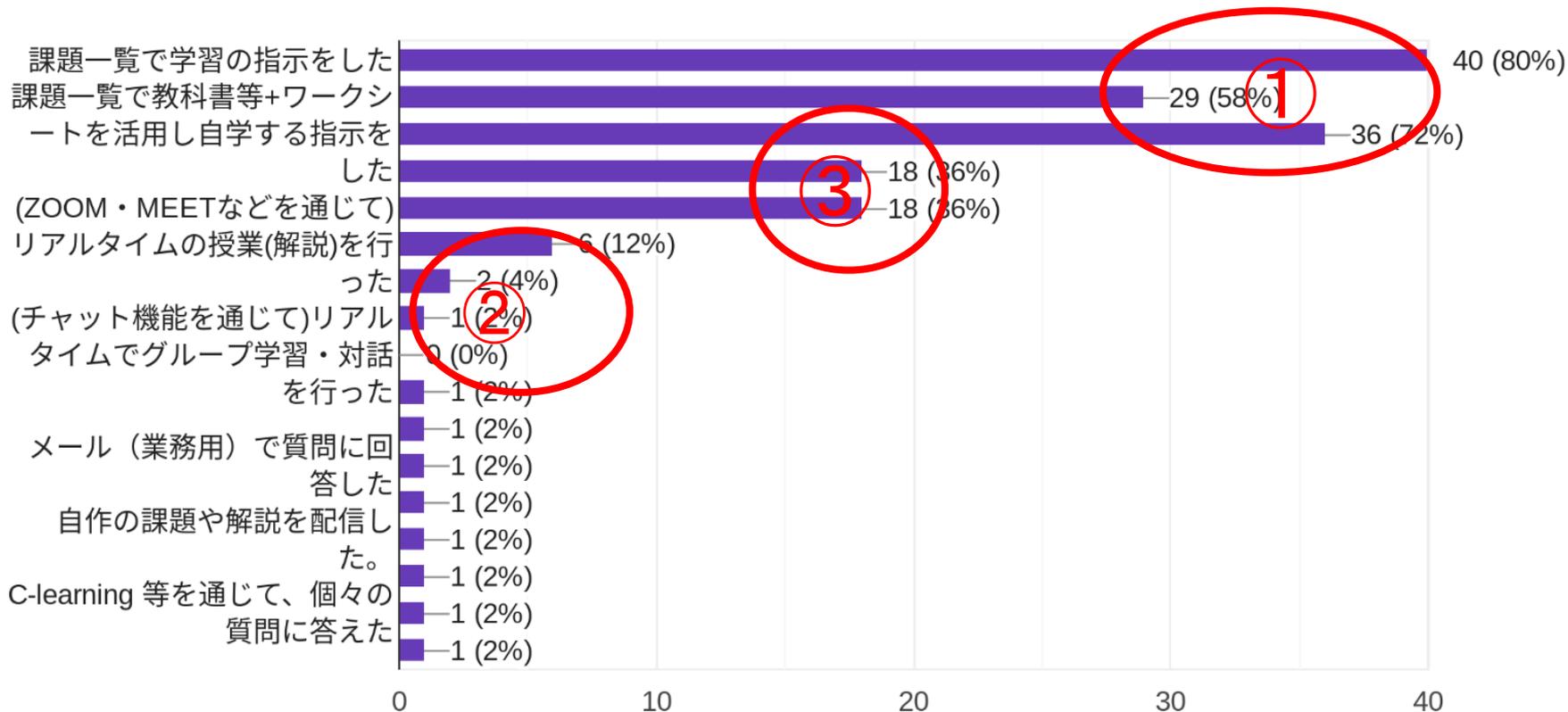
①これまでと同様に課題を設定・指示

②オンライン授業（同期型）

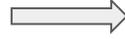
③オンデマンド（非同期型）

問1 生徒への「学習支援」をどのような形で行いま...たか(行ったもの「すべて」を選択してください)

50件の回答



3月
既習事項の確認・
春休みの課題



課題を設定・指示

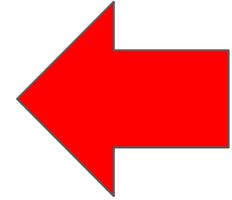
4月から
新規学習内容について
どのように取り組むか



①これまでと同様に課題を設定・指示

②オンライン授業（同期型）

③オンデマンド（非同期型）



大学受験・資格取得などの学びについて

独学



通信



オンライン



予備校

宅浪 < 進研ゼミ・U-can < 東進・Try It < 駿台・大原

課題の配信・指示のみ

オンディマンド型の授業について（非同期型）

MOOCやgaccoがモデルとして存在する

gaccoは修了率がMOOCよりも良いと言っている。

MOOCは5%だけどgaccoは **10%**!

リアルセッションがあると飛躍的にその数値が上がる。

そもそもオンディマンド型ではモチベーションの維持が難しい。

Google認定教育者資格試験（同期型）

オンライン講座 2週間でlevel 1 ・ さらに 2週間でlevel 2 を取得しました。

共にMEETを使っの講座

知識問題 → Kahoot!

リアルタイムで得点集計がされて面白い。

スキル → ハンズオン

わからないところは
その場で対応

ちなみに試験はCBTで3時間。

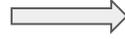
つまり

大人でも非同期は続かない。

同期型でも双方向のやりとりが必要である。

また、試験など効果測定がより大切。

3月
既習事項の確認・
春休みの課題



課題を設定・指示

4月から
新規学習内容について
どのように取り組むか



①これまでと同様に課題を設定・指示

②オンライン授業（同期型）

③オンディマンド（非同期型）

これを学校として決断でき
たかも

学ぶ意義

5~10%

理解できるならば個別最適化



個ではなく集団で学習する→その過程で意義を発見する



場の設定・
伴走としての教員

学校の意義が存在する

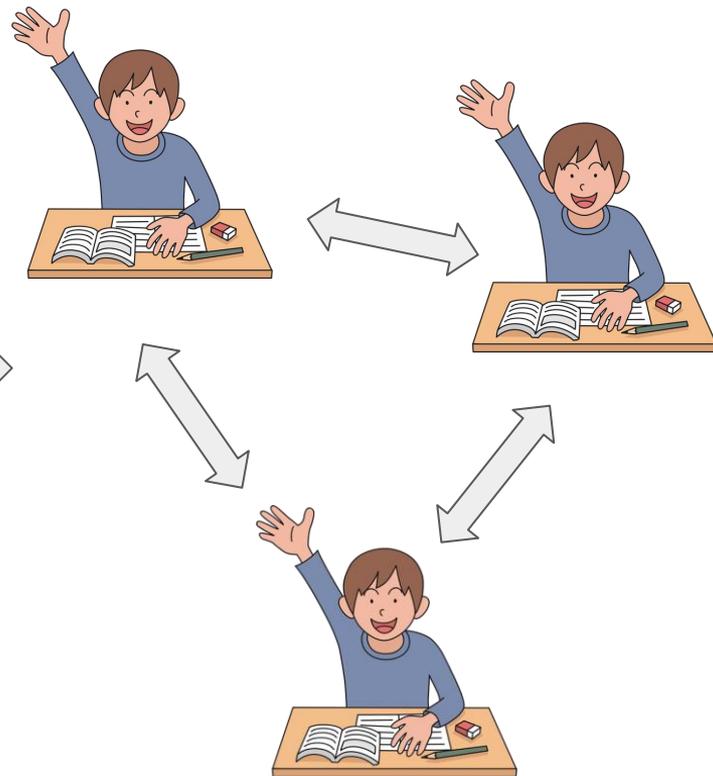


long before コロナ時代



before コロナ

深い学びの実現



対話的・主体的な学び（現在）

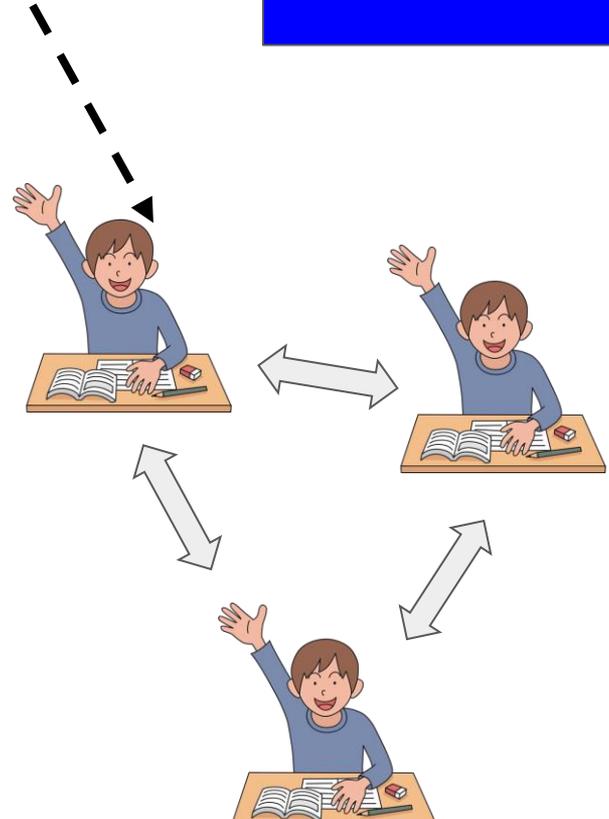
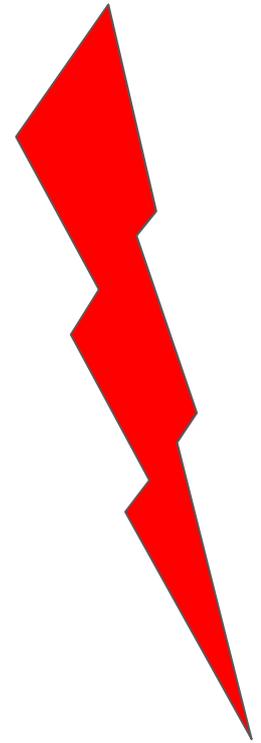
オンライン

学び・学力の保証

深い学びの実現

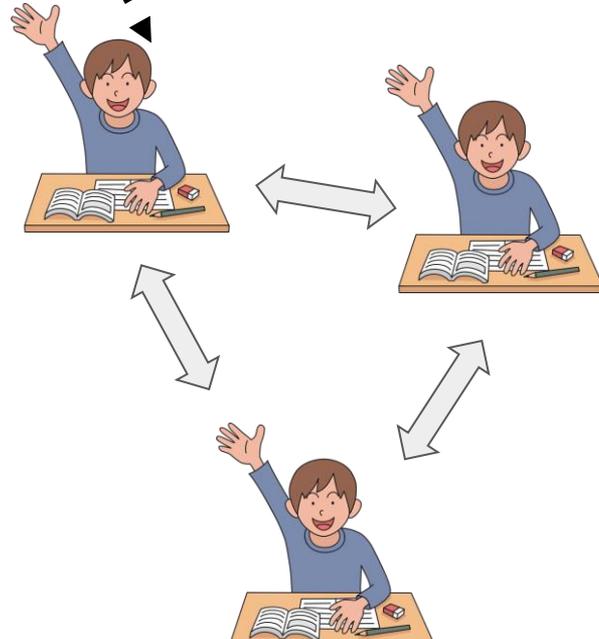


with コロナ



オンライン

深い学びの実現



after コロナ

休校期間中の問題

①生徒のネット環境に

→端末・Wi-Fi・プ

②生徒のLMSの操作

→アプリのインス

③教員のICTスキルに関する問題

→LMSの操作

各学年数人

全て事前に解決できる！

個人に任せられていたのでは・・・

今後の展望

①オフラインでより主体的で対話的で深い学びの実現

リアル授業は何をするのか

授業で知識の注入は必要なのか？

録画で十分では？

②オンラインで主体的で対話的で深い学びの実現 withコロナ

休校時にどのような授業を展開するか。

大学生と異なり、生徒の端末はスマホが基本である。

教材に何を使うのか？プリントを印刷させるのか？郵送するのか？

そしてその学びをどのように行うのか？

評価をどうするのか？

③ **オフライン**で**オンライン**を活用した主体的で
対話的で深い学びの実現

検索可能

共同編集

外部連携 etc

今後の展望

1. **オフライン**でより主体的で対話的で深い学びの実現

2. **オンライン**で主体的で対話的で深い学びの実現

withコロナ（生徒の端末はスマホで）

1. **オフライン**で**オンライン**を活用した主体的で対話的で深い学びの実現

最後に ある先生のこの期間の総括

新しいことに挑戦しなければいけないときに、立ち止まっ
てはいけないんだと痛感した。若手職員の力を借りたり、
研修などを通じて動画配信が苦にならなくなった。すでに
15回以上配信している。新しい取組だから、失敗もなかつ
たわけではないが、それを次の課題に活かすなど、自分な
りにclassroomを最大限に利用できたと思う。